

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」

上海日本人学校高等部で「すらら」を4月より導入

アダプティブ・ラーニングで、教員負担を増やさず一人一人に合った基礎学力向上を狙う

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦、以下すららネット）は、クラウド型学習システム「すらら」の提供、および、運用支援を行っています。この度、上海日本人学校高等部で「すらら」を4月より導入し、基礎学力の効率的な定着のため活用を開始します。

上海日本人学校高等部は、世界の日本人学校89校の中で初の高等学校として2011年に開校しました。「未来に向けた新しい価値観の創造」という建学の精神のもと、個を活かし、個を伸ばす教育活動推進と、「主体的学び・対話的学び・深い学び」のための考える機会と探究活動の推進を行っています。

今回、「すらら」を導入するのは、ICTを活用し、効率的な基礎学力の定着をはかり、21世紀の社会で求められる「思考力・判断力・実践力」などを身に着ける機会を増やしていくことを目的としています。

上海日本人学校高等部は、保護者の転勤やインターナショナルスクールからの転編入で生徒の入れ替わりも多く、それぞれの学力や進度には差が生じています。生徒が直面している問題に対応し学力を更に向上させるためには、一人ひとりの学力に応じた指導の高度化が必要になります。アダプティブ・ラーニング機能を備える「すらら」を導入する事で、教員の負担を増やすことなく、個に対応する学習を与えることを実現していきます。

【教務部長 河内 晋太郎 様コメント】

本校では、設立母体でもある「上海日本商工クラブ」・「協力大学」と連携をして、通常の授業だけではなく、企業や大学との連携授業・キャリア教育などの様々な取組を行い、社会で求められる「思考力・判断力・実践力」の向上に努めています。

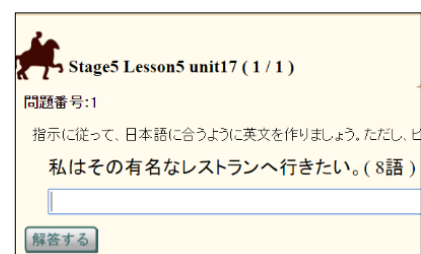
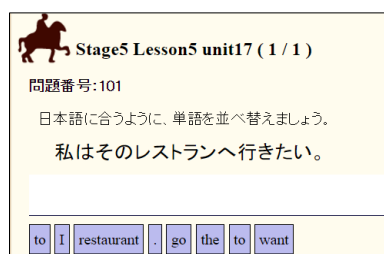
そういった取り組みにおいて、土台になるのはやはり「基礎学力」です。「すらら」を導入することで、生徒一人ひとりが自分に合った課題に取り組み、自ら学んで力をつけてくれることを期待しています。

「すらら」は、海外における日本人向けの学校では2014年に如水館バンコク高等部に導入され、2017年にはシンガポール日本人学校中学部にも導入されました。他にも引き合いが来ていることから、今後も各国での日本人向け教育機関への提供を推進していきたいと考えています。



▲「すらら」を試用し学習する

上海日本人学校高等部の生徒



▲生徒の学力に応じて難易度を自動調整する、

アダプティブ・ラーニング機能

(並べ替え問題が解ける生徒には記述式問題を出题)

<本件に関するお問合せ先>

株式会社すららネット 広報担当 e-mail: support@surala.jp

TEL: 03-5283-5158 FAX: 03-5283-5159

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学1年生～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約50,000名（2017年12月末日現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

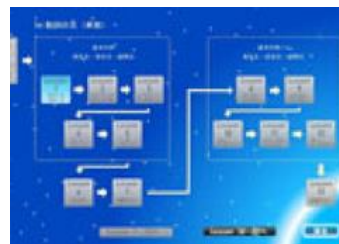
○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AIが生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要 （2017年12月末日現在）

- 設立：2008年8月 ○資本金：27,279万円 ○所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社URL：<http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・第9回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
 - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016年）
 - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)
 - ・「東京都革新的サービス」優秀賞（2017年）
 - ・「SDGs ビジネスアワード2017」スケールアウト賞（2017年）
 - ・「世界発信コンペティション2017」優秀賞受賞（2017年）